

令和2年度 学校評価実施報告書

学校番号 53 学校名 千葉県立松戸馬橋高等学校 課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>①今年度はホームページの更新を月に15回以上行った。更新には13名の職員が関わって情報発信し、教育活動に係る情報を発信できている。</p> <p>②今年度はコロナ禍の影響により、ボランティア活動の多くが中止となった。そうした中、2学年を主体にボランティア清掃を実施し、307名の生徒が参加し積極的に活動した。写真部を中心に福祉施設へ色紙を送った。</p> <p>③臨時休校に係る職員会議を数回実施した以外は、予定回数を超えての職員会議は実施しなかった。勤務時間を超えての職員会議は1度もなかった。4月から、全職員の出退勤状況を把握した。昨年度よりは月超過勤務時間80h以上の職員は減少した。毎週月曜日をノー残業デーとし、すべての月曜日で実施した。目標申告シートに業務改善に向けた取組を記入する職員が増えた。</p>	<p>①昨年度から今年度にかけて、ホームページの移行を行い、職員が使いやすい仕組みに整えた。次年度はさらに多くの職員が積極的に関わるよう研修等を実施する。保護者や地域からは学校の様子がわかりにくいという意見もあり、今後はホームページだけに頼らない情報発信にも取り組む。</p> <p>②コロナ禍が収まった段階で、昨年度までできていたボランティア活動を復活させる。それまでの間は、コロナ禍であっても可能な活動を近隣小中学校と連携しながら模索していく。</p> <p>③引き続き、会議や議題の精選を行い、会議にかける時間を減らしていく。研修会についても極力、他の会議や研修と合わせて行うことにより、実施回数や総時間数の減少に取り組む。部活動ガイドラインに則った部活動運営を行い、週休日・休日の超過勤務の減少を図る。</p>
学習指導	<p>①9月に生徒による学校評価アンケートを実施した。「わかりやすい授業をしているか」の肯定的評価は86.3%で、目標の85%を超えることができた。6月と1月に、生徒による授業評価アンケートを実施した。授業に対する満足度は94.4%であった。</p> <p>②全学年で毎朝10分間の朝学習を実施した。参加率は90%だった。今年度より民間の学習ツールを導入し、生徒の登録率は100%である。また、この学習ツールと関連付けた基礎学力診断テストを2回実施した。生徒によっては、学習ツールの動画を活用し、発展的学習に取り組んでいる。</p> <p>③11月に授業公開を行い、延べ25人の参加があった。中学校及び特別支援学校の授業参観等に4名の職員が参加した。コロナ禍の影響で異校種交流は減少した。</p> <p>④研究授業は12名が実施し、参観者は延べ92名であった。学校として動画研修サービスに登録し、職員が隙間時間を活用して研修に取り組んだ。大学教授を招聘しての授業研究も実施した。</p>	<p>①各教科でアクティビティを取入れた授業を模索している。次年度は小中学校の授業見学を積極的に行うなどして、よりわかりやすい授業を行えるよう学校全体で取り組む。</p> <p>②全学年において、学び直しと基礎・基本の定着を目指した朝学習を実施し、遅刻の減少など学習面と合わせた効果が出た。上位層の生徒もいるので、この生徒たちを伸ばすために動画視聴ツールの活用を推進する。</p> <p>③近隣小中学校や市内の特別支援学校との連携は継続している。コロナ禍が収まったのち、昨年度並みの交流状況に戻したい。日頃から相互授業参観を積極的に実施するよう職員に促し、授業力の向上に努める。</p> <p>④引き続き校内研究授業を実施していくとともに、他校の授業参観にも積極的に参加し、先進的な授業法等を導入させる。校外に出なくてもできる研修を積極的に実施し、教職員の資質の向上を図る。</p>
生徒指導	<p>①毎学期の遅刻防止キャンペーン、挨拶運動、毎日の登下校指導、保護者によるマナーキャンペーンと遅刻防止に取り組んだ。朝学習との連動で良い効果がでている。遅刻者数は、1学期は1日20人以下の目標を達成する日が多かったが、2学期以降の増加をどう食い止めるかが課題となる。地域による学校評価「生活指導はきちんとこなされているか」の肯定的評価は94.4%で目標の85%を超えることができた。</p> <p>②部活動加入率は63.8%で前年より若干下降した。コロナ禍の影響で文化祭をはじめ多くの生徒会行事が中止となったが、生徒会活動や部活動に関する学校評価の肯定的評価の割合は横ばいを維持した。</p> <p>③学校生活アンケートを3回実施した。相談支援の必要な生徒の洗い出しに役立っている。全生徒に対し、個別面談を2回実施した。スクールカウンセラーとの相談生徒は32名で、カンファレンスを毎回実施している。</p> <p>④モラルアップ委員会を中心に生徒とのかかわり方についての職員研修を実施した。いじめ防止対策委員会を開催し、早期対応に努めた。</p>	<p>①遅刻を減らすための学年指導は年間を通してしっかりと行われている。保護者との連携を強化し、年度途中から増加する傾向に歯止めをかけたい。通学マナー等で地域から御意見をいただくことがある。通学マナーについて全校集会を行うなど計画的に取り組んでいく。</p> <p>②今年度は、多くの生徒会行事が中止となった。部活動については文化系、体育系とも活動が制限される中、大会等での活躍も目立つ。次年度は加入率の増加とともに大会結果のさらなる向上を目指す。</p> <p>③カンファレンスは有効に活用されているため次年度も継続して実施する。スクールカウンセラーへの相談数が多いので次年度も配置を要請する。</p> <p>④高等学校における通級指導教室が設置されている。多くの職員が、通級について見識を深め、学校として特別支援教育や人権教育の充実を図れるよう研修を充実させる。</p>
キャリア教育	<p>①年20回、キャリアカウンセラーが来校した。また、PTA研修会の講師として招聘した。生徒による学校評価の「進路情報提供、進路相談が丁寧に行われているか」の肯定的評価は93.1%であった。</p> <p>②外部人材を活用した進路説明会等を8回実施した。全生徒が少なくとも2回は参加している。コロナ禍の影響で外部人材の活用回数は減少したが、教員が代わりに実施する等、進路活動への影響を抑えた。</p>	<p>①キャリアカウンセラーによる面接指導や進路相談会は効果があるため、学年の早い段階での活用を促したい。公務員希望者の勉強会や進学補習の講座数を増やしていく。</p> <p>②今後も外部講師を有効に活用し進路ガイダンスを実施していく。生徒の進路先が多様なため、バランスに配慮した情報提供や個別の情報提供を行っていく。</p>
教育特色ある活動	<p>①コロナ禍の影響でオーストラリアからの短期留学生を受け入れられなかったが、姉妹校との手紙の交換及びビデオレターの配信を行うことができた。</p> <p>②韓国語講座を能力別に2つの講座に分け、それぞれ8回(6名参加)と7回(8名参加)、開講した。その成果として、生徒1名が千葉県韓国語(イヤギ)大会(スピーチコンテスト)で金賞を獲得した。</p>	<p>①オーストラリアとの交流は生徒の関心も高い。来年度は短期留学の年であるが実施は難しい。コロナ禍でもできる企画を検討し準備を進めていく。</p> <p>②コロナ禍の中、韓国語講座の実施回数は減ったが、能力別の2講座展開が効果的であった。これを継続し、更に上達を目指す生徒へも対応したい。</p>

学校評価の公表について (手段・時期・内容等)	3月に保護者あてに通知するとともに、学校WEB上にアップする。
----------------------------	---------------------------------

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	①配付物等がきちんと保護者に届かない家庭もある。ホームページやマチコミメールをさらに工夫して情報発信してはどうか。新聞・テレビ等の報道機関を活用してはどうか。 ②コロナ禍でほとんどのボランティア活動が中止となった。コロナ禍が収まった際には、再び実施できるようお願いしたい。 ③学校における業務改善は何でもすべて削ればよいというわけではないので、なかなか難しい面もある。部活動やボランティア活動が盛んな学校なので、その良さを保ちつつ業務改善にも取り組んでほしい。	①ホームページについては、より多くの職員が関わりリアルタイムで情報発信できるよう充実を図る。マチコミメールについては、緊急時用という前提を守りながらも、有効な活用を検討していく。特色ある活動を行う際には、報道機関への取材依頼も行っていく。 ②ボランティア活動は地域のためになるだけではなく生徒の心の育成、キャリア教育の観点からもぜひ復活させたい。コロナ禍が収まるまでは、その状況下でも可能なものを模索していく。 ③全体的に超過勤務は減少しているが、まだ不十分である。教材や分掌資料をデータ化し、全職員で共有するなどして事務負担を減らしていく。また、研修会を会議の中で実施するなど、全職員を拘束する時間を減らしていく。
学習指導	①多くの生徒は真剣に授業を受けているが、一部集中できていない生徒も見られる。 ②家庭学習習慣が定着していない生徒が多い。基礎学力向上が課題である。 ③コロナ禍の影響で小中高での相互授業参観がほとんどできず、残念であった。 ④コロナ禍の影響で外部への研修参加は難しかったが、校内の研究授業の際の参観職員が多かった。	①生徒の主体的活動を取り入れた授業が増えている。今後も、すべての教科でアクティビティを取り入れていくなど、職員研修の充実を図る。 ②基礎・基本の確実な定着のために、毎日の朝学習は効果があった。朝学習の成果を目に見える形にすることで生徒のやる気をさらに引き出していく。 ③昨年度までの取組を復活できるよう、小中高での連絡を密にし、相互授業参観への参加を促していく。 ④来年度もコロナ禍の影響で外部での研修は少なくなるものと考えられる。校内での研究授業や外部講師を招いての研修を充実させて対応していく。
生徒指導	①自転車の乗り方については本人が被害者にも加害者にもならないよう、丁寧な指導をお願いしたい。先輩が後輩へ指導するなど生徒同士の取組も入れてはどうか。 ②コロナ禍の中、多くの学校行事が中止となり残念である。体育祭を実施していただいたのは有難かった。部活動加入率が横ばいである。 ③スクールカウンセラーが定期的に勤務し、相談体制が整っていることは有難いことである。 ④生徒による評価の「先生は、あなたが相談するとき、親身に接してくれますか。」の肯定的評価が前年度よりアップしていることが素晴らしい。	①生徒による遅刻防止キャンペーンや挨拶運動、PTAによるマナーキャンペーンなど、これまでの活動を継続させるとともに、生徒による交通安全啓発活動も計画していく。 ②コロナ禍が収まった際に、昨年度の活動を復活できるよう生徒と一体となりながら指導体制を整えていく。新入生には部活動への参加を推進していく。 ③本校の教育相談は有効に機能している。また、特別支援教育担当との連携も密に行われている。今後も組織的な取組が継続できる体制を作っていく。 ④今後も生徒の人権に配慮しながら、生徒指導の機能を活かした指導を継続するとともに、心を育てる教育を推進していく。生徒間の小さなトラブルでも、早期にいじめ防止対策委員会を招集するなど、素早い対応を実践していく。
キャリア教育	①キャリアカウンセラーなど、他校にはない取組はとても良い。多様な進路希望に対応できる教職員が必要である。 ②コロナ禍の中、就職希望者の決定状況が順調であることは評価できる。早い段階での意識づけが必要である。	①今後も積極的に外部人材を活用していく。また、多様な進路希望に対応できるよう、職員研修を充実させる。 ②コロナ禍で就職難が心配されたが、1月末で就職決定率100%を達成した。コロナ禍が収まればインターシップ等の取組も復活させたい。
特色ある教育活動	①オーストラリアへの短期留学は生徒にとって貴重な体験になる。ぜひ、継続してほしい。 ②韓国語講座や文化理解の授業等、国際理解の取組が活発となっている。国際交流は学校の柱の一つである。生徒にとっては貴重な機会となるため今後も推進していただきたい。	①次年度は短期留学の年であるが、コロナ禍のため実現は難しい。姉妹校との交流を工夫するとともに、国内での英語合宿等での代替を検討していく。 ②韓国語講座は意欲ある生徒に好評である。今年度実施した能力別の2講座展開を継続し、更に発展的学習を希望する生徒にはスピーチコンテストへ参加を促すなど質の向上を図りたい。